戒言　全

うまこころひとゝいふまたいせつなりうらく
わつてゆふかんちうくなりこのまくわくふてのみう
おもしはしめハ人ことくをさしきふ清めう
まゐもとるゝ雪のちりしつれまうとかく○
てらわかあてあるれてくふしてさしきとぬ
せきしなわれ此ふろのちふハさしきてつゝら
〈しとれハ雪児といふけしやのね出去とめく
あてゆきとふしく人とらくちふのしるり
きうれよこんちいてんやのこゝろひあり
うれゆらいとくもしくろあるよむしわ
天竺のきう小こきしちうくといふくふあを

慶應義塾圖書館藏

そのくふうりみをとおりしゆきはするといつてんゐだい
ことも申してまゐるはこさされたるくることけいぶぶん
ともふきとなお又はむしもちひろりゆしきすはる
といちんじきくりこそくおりしさわるとれさ
されるやませるふるあるちざいよおりせすひはふ
はるくするせ給ふだいとりとけし給ふきてゆつりて
おりくのさいちづくくごぢやうてんじやう人るいてん
げてんみちんうくとけし給ひ百度給くいふてるゆて
るあくさのうちてとかざしちやうのひざとはく
こせんちんならすふをちんしきゑらこやの
はるけさくるふふしてんまあつき地よふしら

おしこのく中をかひもるくはさひとみくうたまふ
さてしらあり庵さにありしれ又さされわうしせゆし
ゆさでいとてあるくふしろこさされともし人ますてせ
給ひ名たいもりといふしへのくりしこりのまくふ
たゆしめさすゆりしさゆるりひちきみをけいが
のはくるれいわりつとをなけこうれまもりくろかて
為ところしかのこさされあまりの人まかいかまりて
じやあんちくいつ川の人ならとりまけかのひろ
ふやとふくみあふしかきるしけいかの中
のわまちさいかのひろこさきといろくにざんげん
したゆふあるれこさきさふのはきくみまかいその

くふのくるゝにてくさんといふやまおもかの
やまさんおりてうこけんのかし給ひさとふ
おもくいへるを人のうちつることしりけれ山すし
けさおもはしてやうとふあきらのけらおかし
なにらんのちくるいとおもくふおひさとおき
おもしのさくひとひときりうしとらかんなん
のけとさすてこるしかくれおそろしきやすへ
ひめきみもあらしうすふへきとしてふかしゆく
あふをていうれしやうへなくらもてきぬけいが
けいしのきつとひきうしうれなるけるさしや
わらんとこそへりおひくらさまはひらくやはかの山よ

さとわゆしやしあなくとちりゆきさひとをそら
あふうの山の招くのしてわすといへとをひらくや
ほおやもわゆうとてとをなくかへりておもくらやまひ
そてゆうりしさとりとらてまもせくらかれおりて
よ月日とをなせおふおもしれかの山のしてのとき
きさアてひくらやのまへよひさゆつきらしむとた
まてらいしそまうりてすめちとおとせるうと
もしへてかしこまるひとらやのいるうとしわへをの
せてゆくへきとてへてくいすまいかいいちへ
ゆけんしてゆらいのちおくもわりいさて
やしひおもくしてようちのそらわへいよくへいゆず

してんしのわうしせかいしてんでんのおかゆるま
おろしそてまつりてさられくきやうしたいしやんひら
きやくと見しそてまつりてうろこしびえじめくてしかき
ある事しりのてしくかしつきしそてまつるハ又あると
きかのきされのはうさかしくひかしやといふくかく
しかひてはふびハおかうらかとこそかけし山
あかしろまをくふのくてしならせくぐんさんと
いふ山ならものくぬよわれそてまつさせ給ふたく
けるしき山まうるまあさそこしすゝめる
山なりろしくぬたらのおかこさ山ならされハらくん
さんといたらもしるゝ山とくるらうのやまのもと

はきひとをくろ木のほとまくしふ志けとしまれ
としつゐしをゆさとふかとぬとしてあしくくさ
せかふこましもたうどもまいりてだんとはらすゝり
おきとあらんへたてまつるかれとこゝろよみくとら
たらとうくせし給へきたちふは山へおわしくのはハ
らめをはらハさるられし山へわけ入なすのたふされ
そのかるゝかふあるまれりとふいさまハらしぐん
びまいよやさしきひかしやわさらせあふとらく
こそてまるハわうしゐくんのはひかしやならいそ
きうしこぬかてまつりそうふとしてゝくおそ
ろしきさとろへことゆきまるしせあふうこと申そて

まつまハわつまハけいかのざんげんによつてはやまへ
すつさうしならしのうまへハめされはいそうしを
つひたちといふところではいちゑんこうみをとりたてまつ
りてこやけいへかへりこみしかくとうしきんちう
たてまつまハはやくもひかかるゝしそのちハ
ばちうしこやとはやくりうてまへとときあまひさうさ
きちをはなくさしふおかしけうみちハとを
こさちまへあそさま人をかのしゆハらいげんさんとて
ところしらちうかふなへこしりうてと残こさちまなら
ふみぢ言をはけるあつたなわはしゆよハ本うけ
くさこけのふくひるしかしあるいそかのゝ

乃さんしさひちこさうとうしわはあるへいまうしてのゝ
まふ給くいをかなしさこしふちへとをちうしの御も
しとやきんしのさすところあれいちうしたよ
ばすあやるくひちこさうとかしわとわはあるへはる
うつゑをのまらハみるへちるしまならてらと
もうし山へ入もとそゑんのつてよもくとるして
かのぼさいとつひそてまろなかわこさうゑのゝ
やいふふちふしるしうまし御かしめさま
人わかくて十月をわしそてだいまうハたかくく
つまはちつるしもあふこくよのあみをよひちハおれ
はさう○あつまこるへちかもふてまつわらしや

又やと思しめしていろきさうぐしへるせ
あひ給いらんあまハいれしらかりし御さげる
らんあさびて人をるしちられくくさ御の女房衆
女へはらる〇あまとをたまもしまさてまろとく
まふもと人るしだいかうしハかさ〇てのはすけさ
のはるかさをんだんなわやしくひらすを百日ハ
くわよすとせかひなられあまらのはるすささふ
だいまうハせいあやしてんへるしせかひてせうのし
山とはるかわあひとくるすしねはらひとはするく
ふむしをひふしまひきせかひさうらしかまてそ
おもしなるくぎやしだいぎんをらん西いとをよ

ぎやしたまおいふへとをすしさんことしはお
ていさゆふころくせいあやしてんのはなるのく
そふまよしはらふはよわひあさてごてんのうち
なてすくとあまみをあやしくおかしめし
ていられなをせとめさまうくふハせけるけせや
なるハせいはのさくよいろさ御人あまかとけのや
うわるこくかきるこさぎん御まうしのくひろ
ぢらせきやくけわうこふあしらおわう
ゐしとうするひいくすくぎやしだいぎんれ
のかうなさいる人くいちどふざしきとさ
いとたちなを小まにとしあまおうやまもくと

はらとかやまゝ人は勝くいざふかんもつらとのく
あくさまゆんなしすやく六しやくかやさ
しみそてまつまいゝのごちらしわいらうん
ざさひらやまつせあふいそきりやくてまつ
てだいまつのはやふかけよてまつまいはんこ
びいかまわるしひゆんゝやよまやつきかひて
よろしひのはすゝて又せんあくたまうすゝと
のあふをまいこまちしみしけいがのやさする
ゆしこのくふしとききていりもしうきめと
みきんふらいるまゝくふくをはらうしちてはふ
よろしくおもわず中しさひさしてくるは

しもてくわんふんよあふをつけらまくまの
あとめりらてうけいかふのとはくやしうゝのかと
やふだいわしとひめさまみゝゆきなわてかのふけ
おふのよひらゝやをはくやこゆん勝くのゝあ
まくまんらいむまれるとれらをたしく金
あゆすいろさあがけぢんさんかうのけぢんなち
とおかゆはくみいてつれやふあまんしわがけ
ちふちんじやりのくふへゆきしらてきもじやく
ともさいどしあくへとそておんまゝぐかいりらとまう
おゝんへそとしてしあふおはくのくこざやうだい
ぢん百夜（ひやくや）ぢんゝんまいてまつてなこつまとおしく

あふくかへりすしだいまいれそのまゝしだいあとへい
はくりもうせたまわぞかみかゝのほとりさよう
はくさりはしありけはしいくものゝきのゝしけあと
さわけとこんよいろふもあさゆしくいかなとはく
らせ給ひてすませあふたわやいとはあさゆしき
るよおかしゝしよすて人となりてひろゝやの
めさましいてさせあふうしくとあさゆふすゞわくり
しよひあらしたゆふとうんさうし寂光院と
まうしきさらかとふ念すて人といくものゝなく
くなりさらあひかのうけかふゝはさしはだんに
をしのさつゆましころすう道への志おはいつ
をいけとを志てうきのかさとふ志つしかのゆく
ゑおかれるしおかへなおけのはきひとを
くわもしくてはあきろもあつまのなりて袖ぬらし
くふとろやとまらかきうしふらふなわそれよう
しらんのたいふとうし人あまあるれはあとの
たゆんしとぶ○よさかきひてうきつへらさいつ
かのたいふはさうけかふ○と見ゆしもりやうれ本の
するよこしてとゑひさこさしよせんしとてうしへひき
あけうらまでこれはかはしけるしやこる○
のさまくとこられさらこしくすうひろきみ一人
ましゆもそかのおとこみさてまうりてよのはを

てしこかたとも上りてやゝ程くわたりては
おとこのいましいろいろへうんちたく人よわ
そあとなのかしたまへるしあとなのかしたまわす
いはいのちとうしりひかいしせんと由ふさいひち
ふみこたへてのも由ましわ上いけしやいみねゑ
をうしみんくんあやまちらくとりふゑふの
わうのしそなわけいがのふんくんよおわてう
はかなしく○りしはくかミこゆんうましはさしはへうち
はらま上わましうといてしとれちのだいまう
のあふをよぶりちゝふ為ふのくふへゆけならとの
たまひしなちはくふハぶりちふちんしやうの

くるるハとかしわけて与させときまにがいぎん
こふ阿しえむぶりのくるるハいそささる
せとのるまのくれハさそハふんぐんかくわかし
くるしていろうきわかしたてまりてわうやとく
かつらいいさかしけしてかさりすし出さん
のたつふいもとらわこともすのさりのまれにかけの
むまうさちうのたゆのとしせしならはひろさ
みにもふ為ましいのちちおりしくるはとし
はさうえのうへようきさ志はうし縁ひはりと
そゆしかんたちふいさうやわかしくんくせのうち
いよし おのりせかふかりくまたいゝふぬくふいあと

やまてふはきさらひていくはせんとすけさくら
くそひろやのおふをよはわかまくふかわかし
とさけいかのわかさみく山くしまくへすし
うしろかれつるよわしさのいのちたすかり
てこまてきてあてきともらことをきうれのく
のさてぬまつてるるゆくしわかまうれとき
よわきんくせしゆえよやすしひとうけつなら
あつつけるなかるはらくくのちみると
たのむしたちあるなことをもしのたいふぬしふや
ほうきさひしのちたいまやとそれとさいたい
のことはふくかくだるしのつるときしかふある

じつぬいゆらふたつしとをそれちらしして
ぜんごさつよわさまくをすぬるけさのあもり
ふきなしひつとせしらくかのむしるしれひち
こやと入まつしゑらふとさてみねかつ
かうしたてまつりぬるあるらのゆめし
わきよぢきとおくきしがみけしるきうまる
ふでとこへさまらしとちてふく由
すぶだしのちよはちんちたかよいとんせ
おもしろくへとまつへしとごせしとよふ
うちとあけぬまいいろさうしこへゆきてかのい
まねをえもしさこまいあもしひろこやの

はゝちハみづしきして おの○ちてむしもしもすくと
とらわけくりしきこくされてとをうしく
ちいさきむしとなりてあまりわたりふ見へて
まつてさてハ又むしまま出あひまうしてよろ
こひしろことかたはるしさまハくびぬともまう
きんとごくのくひこまくられとさるれぬ
のことうまハまわとゑてかのむしと申すべ
こさいとしずたりふはくしとあんし
ねればしひちさみハいたらくの人みく御しまゐせ
れこさいとしずさうるしひちさみのはらふ
みをくるの本のあまりはこれかのふ○たをはく

あまつてんひとつみハくふの本ままバその中わと
くるまにやせんとてくるとわてかのむし
ともの事ふいまたれハこのむしとらうひ
くるのちふしあまはきくくらふなわさまハ六の
本のちとまつせく志きめの本ふくあれハ六ひ
しくたりゆへしきこうしめさるしうやとて
くるとすつせたれハ志ていよひとうあまふ
こふきくわあしむしさらくるとくすい
らすうこれたつたをせよしてるしか
ちらといちやうにあしとちゐるていなわた
いふとうたらもちまハるふとてかやうにわるや

らんといふはようのよのゆゑにはけてのごとく
まくおひかなくてさうじこともなれるかふて
てしまさんとふじ山ようされてくをうけ
しくるしこのうしかさゆゑいまだしきさわう
るやむなわかやまもうしてまびわかしわう
ぢんじやうのときいちしくまらぬしれのと
うつのくをうけてうづじなしうのうらいか
ふ○よのせらまてわかまさにむなしとてゆ
めさえねさてそれこぞひとうかり。けしえの
とゆういしけめとゆまといつきわをひとなく
なわ小だんめのとゆまはたらとゆまといつそ

のうれいかうふをさしらくべしさんだんのとゆまと
ふ子とゆまとといふうのうれとゆまとにまとゆ
まといふうるう四十九のとまらいしてまさんらくぐん
さんらいぢんさんうのてらわいだいかのふとにうち
須弥のしとゆるやまをせんわるうにとのうへのと
まわひうのだうれとゆうたらうしく
しやさぢんしてふしやうといじべさなるせう
のゆまはしてのうまひとはくえれてうり
わう○よのまはしとゆるなれつうなわうれうち
はくだ山ひうわのせんかんわまうとかくつ
せんかんといつりかのせんかんくさあつめてじさいと称

あくまくもいふことゆるして人のこゝろしきとよ
きせんふるわさいとは此とれらけしぬまゐらせ
まかせ一人(いちにん)らわ声をたんさんよりるまでさしき
とふきさわるしまなくとするとなからのちきね
あやうんとしいふことをいてさるいしやきとぞ
しくなわきるなわさるかとにさんのたふ
ありくきつしすることかさわるしちてふ文よし
こゝろることわりさんといてんやうのはむしとち
くやひちとやふそてやうるひさらのくふはく
だいへとびあひてするらかくといふきまさせ
給ふくふのひとわりそふきこくしとそすく

ミこゝときもてせわがわきまふることすちすくすある
とれ志んさくにつるくわまはきらしこくのわ
あみだあんいだいまりしのしとやんなわ此くふは志
だふ弥ふのくふきれはふんさんとまとやさ志じや
とさいどせんがた然よきらたまわまいやしき
はしよは屋どることわししてきんちいてん
わらのはたとなわらるるわまこのくふしといて
たいぐひのかきとするならはせくふとしらふくるると
いふこと志ゞしさうするまらくやひちわま
なわちてりやの山をいさんしむすこまわらやこ
ちうれあしさんへうちのありなわしそてかくは

あぢしせかふくのうちかうさんへとひ給ふたち
まちのとまるうらねうとやくるまといつてはくまゐ
のはらくとゆうしのきざんぐんといはさいさんまん
かくおりしゆうしくわきざうひめくくとなわ給ふ
なんぞせいしばさくのけまんまちかくれずりしが
さくのゐんさかくおりしまくすあひくみくちの
人いまくきねをふくならはとんどくをおそゐ
おれゆへならりけるしだいかちゐんぜいのご
ゐんさくみくふわたちえくふをかぴわるるひこ
とあるふこまるれわるふ給はしせんかんい
まやしぢもせんのきやくもかふりたわるをさらし

370

たりふとまりけさいすれきぢいまちあるまじく

元禄元稔初冬下旬

八幡山
瀧本坊（花押）

右此書者、八幡山瀧本坊、自筆
無紛者也、為後證判形令進之
八幡山
（花押）
也

此手本冊子ハ蕙斎略画の類本にて写者ハ
鍬形紹真画室の筆なるべし

110X
287
1